

## 令和 8 年第 1 回東北町議会定例会会議録

令和 8 年 3 月 1 1 日（水曜日）午前 1 0 時 0 0 分開議

### ○議事日程（第 2 号）

#### 日程第 1 一般質問

---

本日の会議に付した事件

#### 日程第 1 一般質問

---

#### ◎一般質問

○議長（田嶋 悟君） 日程第 1、一般質問を行います。

一般質問の通告は 2 名であります。

通告順に発言を許します。

次に、2 番、斗賀高太郎議員は、一問一答方式による一般質問です。斗賀高太郎議員の発言を許します。

〔2 番 斗賀高太郎君登壇〕

○2 番（斗賀高太郎君） 皆様、改めましてこんにちは。ただいま議長からお許しを得まして、一般質問の通告に従いまして一般質問をさせていただきます。本日は、2 事項、3 つの質問をさせていただきます。

1 点目、先日発表されました第 3 次東北町総合振興計画に関するご質問です。1 点目、人口流出を防ぐための取組について。町への愛着度と今後の定住意向というアンケート調査において、中学生の町への愛着度は 85.11% と非常に高い結果だった一方、定住意向では 47.9% という結果になっておりました。このことについて、町側ではどのようなお考えをお持ちでしょうか。

2 点目、今後の学校運営に関してです。ここ 5 年間の年間出生数は何人だったかお教えてください。

続いて、町政運営に関する基本方針についてです。先日発表していただきました町長の町政運営に関する基本方針ですが、その中に攻めの産業振興というお言葉がございました。その中で、成長投資を加速していく方針の国内情勢を

踏まえ、次世代につながる産業の創出をするために、陸上養殖などの汽水湖に適した養殖事業や、観光面においては小川原湖の活用方法の検討など、漁協や有識者等を交えて将来の小川原湖の産業の在り方を検討していくお考えはありますか。

以上、2点、3事項の質問です。よろしくお願いいたします。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

〔町長 長久保耕治君登壇〕

○町長（長久保耕治君） それでは、2番、斗賀高太郎議員のご質問にお答えをいたします。

一般質問通告のありました質問事項1の第3次東北町総合振興計画に関してお答えをいたします。質問要旨の1点目、人口流出を防ぐための取組の、町への愛着度と今後の定住意向というアンケート調査において、中学生の町への愛着度は85.11%が好きだと回答の一方、定住意向では47.9%しか住み続けたいと思っていないという回答結果に対して、町はどのようなお考えをお持ちですかについてであります。第3次東北町総合振興計画につきましては、基本構想の計画期間が令和8年度から令和17年度までの10年間、基本計画での前期基本計画として、令和8年度から令和12年度までの5年間の主要施策を策定しており、将来像のフレーズとして、「たゆまぬ挑戦 さらなる創造 未来輝く東北町」を掲げ、各種事業を展開してまいりたいと考えております。

そこで、この計画を策定する上で、町民の声の反映を重視し、町民及び中学生アンケートを実施したわけですが、その中で中学生のアンケート結果では、町への愛着度は高い一方、定住意向は47.9%と低い結果となっております。この結果を受け、町では若い世代の生の声を聞く必要があると考え、弘前大学地域社会研究科の土井先生と大学院生にサポートいただきながら、中学生を対象に町づくりをテーマとしたワークショップを開催し、現在町に足りないものや望むもの、これからの東北町について話し合いを行っております。このワークショップでの中学生の意見も踏まえ、第3次東北町総合振興計画の主要施策の中には、移住、定住施策や町の魅力発信に関する事業を盛り込み、若い世代が地域にとどまる意欲を向上させる施策について実施していきたいと考えております。

次に、質問要旨の2の今後の学校運営に関してについては、教育委員会に関する質問でございますので、教育長からの答弁とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

次に、質問事項2の町政運営に関する基本方針についてお答えをいたします。質問要旨の、攻めの産業振興についての成長投資を加速していく方針の国内情勢を踏まえ、次世代につながる産業を創出するために、陸上養殖などの汽水湖に適した養殖事業や観光面での小川原湖の活用方法の検討など、漁協や有識者を交えて将来の小川原湖の産業の在り方を検討していく考えはありますかについてであります。小川原湖の産業の在り方を検討していくことは、持続可能な産業への転換を図る機会となるのみならず、小川原湖という地域資源を生かし、町の新たな雇用を生み出すことにもつながる有意義な取組であると考えております。そのため、既存の会議、協議会などの枠組みを活用し、将来に向けた新たな投資を議題として様々な方から広くご意見を伺うなど、産業の在り方を検討する場を設けることは可能であると考えております。

水産業については、現在小川原湖漁業協同組合において、町の補助事業を活用したシジミ貝の種苗生産やウナギの稚魚放流事業が実施されているほか、漁獲制限を設けるなどし、小川原湖の水産資源の維持に取り組んでおります。今後においても、水産業に携わる方々のご意見を伺いながら、養殖事業を含む小川原湖を活用した新しい漁業の在り方を模索してまいりたいと考えております。

観光業については、現在湖水浴をはじめ、湖水まつりなどの観光事業、ヨット、カヌー教室などを開催し、小川原湖の魅力を発信しているほか、小川原湖プロジェクトを通じて湖周辺の環境整備にも取り組んでおります。また、ふれあい村では、受入れ態勢の強化を進め、利用促進と観光需要の裾野を広げることで、周辺地域の経済波及効果の創出を図っております。今後も既存の事業を継続しつつ、新たなイベントや体験事業を企画、検討することで、小川原湖を町の重要な観光資源の一つとして最大限に活用し、地域の魅力を高めていくとともに、地域経済の活性化を促進していきたいと考えております。

いずれにいたしましても、産業をつくり上げ、軌道に乗せていくためには、小川原湖に関わる方々のご理解とご協力が不可欠であります。町といたしましては、各関係者のお考えやご要望を丁寧にくみ上げ、いただいたご要望を形に

するためにできることをお手伝いしてまいりたいと考えておりますので、ご理解を賜りたいと存じます。

以上、答弁といたします。

○議長（田嶋 悟君） 教育長。

〔教育長 長尾誠治君登壇〕

○教育長（長尾誠治君） それでは、斗賀高太郎議員のご質問にお答えします。

質問事項 1、第 3 次東北町総合振興計画に対して、質問要旨の 2、今後の学校運営に関しての、ここ 5 年間の年間出生数は何人ですかについてであります。4 月 2 日から翌年 4 月 1 日までの年度ごとの出生数といたしましては、令和 2 年度 95 名、令和 3 年度 84 名、令和 4 年度 80 名、令和 5 年度 63 名、令和 6 年度 67 名となっております。

以上、答弁といたします。

○議長（田嶋 悟君） 斗賀議員。

○2 番（斗賀高太郎君） ご回答ありがとうございます。

再質問となりますが、質問事項 1 の町に住む定住意向が低い問題についてですが、中学生とのワークショップを実施されたとのことで、この中学生とのワークショップの中で、現在町に足りないものであったりとか望むもの、これからの東北町についてどのような意見が出たのか教えてください。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

私も、詳細はこれから担当課長に説明をさせますが、何か中学生らしい忌憚のない意見が様々出たというふうには伺っております。

詳細については、担当課長に説明させます。

○議長（田嶋 悟君） 企画課長。

○企画課長（林 博幸君） お答えいたします。

昨年の 9 月は上北中学校で、11 月には東北中学校の生徒を対象に、各中学校の体育館で、生徒を 5 人ずつのグループに分け、その中に役場職員が入り、町づくりをテーマに中学生と話し合いを行ったわけですが、まず定住意向の低い原因といたしましては娯楽施設が乏しいことや大型ショッピングモールがないと、住環境の快適さを求めていたことが大きな要因となっております。

なお、この町に望むものについては、小川原湖の環境保全や観光名所の創出、また新商品の開発などの意見も出ておりました、大変有意義なワークショップであったというふうに認識しております。

以上です。

○議長（田嶋 悟君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） ありがとうございます。娯楽施設はなかなか難しいものがあるのかなと思いますし、大型ショッピングモールというと、やっぱり地域のこういう小売店などの影響も考えると、なかなかちょっと誘致というのも難しい現状があるのかなとは思っています。ですが、小川原湖の環境保全であったり観光名所の創出というところでは、1つやはり若い方々の意見というのが非常に大事になってくるのかなと感じます。その中で、このような意見を受けて、町としては具体的に今後どのような施策を実施していきたいのかなというのを、お考えがあれば教えてください。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

今回の移住、定住施策ということで、できるだけ定住をしてほしいという斗賀議員の思い、これは私たちも一緒であります。町として、実はこの移住、定住施策については、考え方は2つあると思います。1つとしては、住むために必要不可欠となるものであったり、生活に密着しているものが1つ。あともう一つは、斗賀議員がおっしゃるように、何か生活にもう一つ1段上のもの、いわゆる利便性や快適性を、町にこういったものがあればいいなということだと思います。町の施策は、例えば乳幼児のこれから行う保育料の無償化であったり、医療費の高校生までの助成、また給食費の無償化だったりという、まさに私が前述したような、むしろプラス子育て支援につながっていくような、いわゆる住む上での暮らしやすさということになるかと思います。しかしながら、中学生の意見はちょっとニュアンスが、利便性だったり、快適性だったり、何か町に光るものが1つあればいいなというふうにも私は伺わせていただいたところがあります。

さて、今意見に出てきたまですショッピングモール等については、企業さんの様々な事情がございますので、現況なかなか誘致をしても難しい部分もありま

すし、またいろいろな話によると、少しでも来客数だったりというのが下がってくると移転だったりというのを考えて、やはりそこは企業的な経営が入ってくるのだなというふうにも考えているところです。

ただ一方で、町の道の駅であったりふれあい村といった、また小川原湖、これは正直申し上げてここにしかないもので、ほかの県とか、そういったところにはないわけです。そういったものをどうやって利用していくかということが私たちに問われているものと思います。そういう意味で、これはもう担当部署が多岐にわたりますので、部署の枠を超えて、職員、そして住民、または地域おこし協力隊の皆さんであったり、地域活性化起業人の皆さん、そしてスキー場に来ている人とか、まなか市をはじめとしたいろんなイベントに参加している町外の方々もいらっしゃると。そういった方々の意見を聞いて、今までの移住、定住施策としての様々な支援のほかに、何か新たな部分で、私たちがらしいというか、これからの時代らしいものができればいいのではないかなというふうに思っています。

その中では、今中学生の皆さんが小川原湖の環境保全ということを挙げてくれたことは、物すごく私もうれしく思っております。そういった自分たちができるところから始めていって、それが波及効果を呼んで、また東北町以外の方々にも理解してもらって、みんなでつくり上げていくものになっていければなと思っております。そういう意味で、ふれあい村の改修であったり、イベントを増やしていくことというのは、今すぐできることであると思っておりますし、今回の予算であったり施策のほうにもちょっと盛り込んでいる部分があります。そういった形の中で、若い人たちが東北町に自信を持ってもらえる、うちの町にはこういうものがあるのだよというふうに思ってもらえる町づくりを、予算が限られておりますので、少しずつしかできないのですが、しっかり順序立てて進めていければというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

以上です。

○議長（田嶋 悟君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） ご答弁ありがとうございます。

私のことにはなるのですが、高校時に八戸市のほうに進学で行ったときに、

八戸市の中学生から高校生に上がったときの同級生とかというのが、やはり郷土愛というのが非常に強かったなと感じました。この郷土愛というところで、今シビックプライドなんて言い方もされますが、郷土に対する誇りを持っている人たちをどれぐらいつくっていきけるかというのが非常に重要になってくるのかなと思います。やはり今町長のご答弁にもありましたように、大型のショッピングモールであったりというのは、地域、この周辺の人口動態に準じて企業さんが選んで、ここに建てようということを決めるので、なかなか難しいところではあると思うのですけれども、今お話ししてくれたように、小川原湖というものはこの地域にしかない、特別なものであるということを経験して、観光であったり、小さなイベントであったりというところで、それもまた周辺地域とは違う差別化、小さなところの領域ではあるのですが、需要が確実にあると。これ言い方をするとセグメントと言うのですが、小さい領域の中でどれだけの需要があるかというものを複数つくっていくことで、周辺の地域のものを取り込めるという考え方もあるので、ぜひそういったところも考えた上で、どういったイベントをつくっていくか、ふれあい村、小川原湖をどういう活用をしていくかというところをぜひ考えていただければなと思いますし、今こういってお話を聞いた上で、町長のお考えがもし何かあれば、ひとつ答弁いただければなと思います。

○議長（田嶋 悟君） 町長。

○町長（長久保耕治君） 斗賀議員にお答えをいたします。

まさに斗賀議員がおっしゃっていることそのものだと思うのです。今まで例えば私たちは、他の地域によく言われるのです、東北町さんは小川原湖があっ  
ていいよねと。でも、ではそれを本当にフル活用してきていたのかと言われる  
と、水産業でシジミだ、ワカサギだ、シラウオだ、これを全面的に押し出して  
はきたものの、ふれあい村があったり、周りの道の駅も含めた様々なアクティ  
ビティーも楽しめますよという部分での発信は少なかったと思います。ただ、  
今いろいろな方々にご利用いただいている中で、様々こうしたほうがもっ  
といいのではないかと、こういうふうなのがあれば面白いよねという意見もうか  
がい知るようになりました。これは大変ありがたいことで、やはりこの東北町、  
小川原湖に様々なものを求めている方々が来て、いろいろ考えてくださってい

るわけです。コンサルタントに物を頼んでいるということではないのではないですか。そう考えたときに、そういった方々の意見をどうやって具現化していくかという行動力が問われてくると思います。

一方で、再三申し上げているように、財政面での心配が出てくる。そういった中で、議員の皆さんとそういった意見を集約していきながら、試験的に行えるものは行っていくことも1つであると思うし、またやはりこういったことを東北町で行っていくに当たって、国や県の応援、いわゆる国や県に私たちが行いたいことを理解してもらえるとといった取組も必要になってくると思います。そういった財政支援を受けられるような、しっかりと企画力に満ちた、そういったこともこれから立案をしていかななくてはならないと思っております。

いずれにせよ、町にある財産をフル活用しているというふうに私は考えておりません。まだまだ伸び代があると思っておりますので、町民力でしっかりこれからそれを飛躍させて、まさにこれからの中学生や小学生たちが東北町に住み続けて、その部分をもっともっと自分たちが伸ばしていきたいと、そういった希望が持てるような何か入り口、切り口、たたき台をつくっていければなというふうに思っておりますので、そういった際には斗賀議員にもご協力いただければと思っておりますので、ご理解賜りたいと存じます。

○議長（田嶋 悟君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） ありがとうございます。町長のご答弁にもあったように、役場の職員の方々も、どこの課だからではなく、複合的にいろいろと手を取り合っていていただいて、もちろん我々も町の声であったりとか、あとは市場調査、あとはトレンドであったりというところを総合的に判断した上で、町長等にも提案ができるように、国政と同じように皆さん一丸となって働いて、働いて、働けるように、中学生たちが今おっしゃったように希望を持てるように、町政を前に進めていけたらなと思っておりますので、引き続きよろしく願いいたします。

さて、続きまして質問要旨の2番目になります。先ほど回答ありました過去5年間の年間出生数に関してですが、答弁の中で、令和2年度が95名、令和3年度は84名、令和4年度は80名、令和5年度、ここ、がくっと大きく下がっておりますが、63名、令和6年度67名となっております。令和5年度も63名と、が

くっと大きく数字が下がっていて、令和6年度も4名増加ではありますが、67名とのことで、早ければ令和5年に生まれた子供たちというのが小学校に入学するのが令和11年。町内で年間で生まれたお子さんたちなので、町内の少子化というところで、学校運営にも影響が出てくるのかなと推測されます。また、将来的にはどんどん人口は、年間出生数というのはこの以前の年度から減少傾向にあるというのがありますので、現在よりも人口が減少していくというのは火を見るより明らかなのかなと思います。

そこで、学校の統廃合に関して、町民感情、もちろん大事です。その中で、現在の町の財政状況、複合的な問題があるかと思いますが、その中で中長期的に皆さんどう思いますかというような形でご意見を聞いて、協議していくというのは非常に重要なのかなと思います。その中で、協議体であったりというところを検討されているのかというところをお伺いしたいと思います。

○議長（田嶋 悟君） 教育長。

○教育長（長尾誠治君） 答弁いたします。

最後の部分ですけれども、協議体を設置して行うことについて検討しているかということについては、現在まだそういったことには至っていませんので、ただ将来的なことを考えますと、そういったことも視野に検討していかなければならない時期に来ていることは確かだというふうに思っています。

繰り返しになりますけれども、学校のほうでは転入、転出等による増減は確かにございます。先ほど答弁いたしましたように、出生数の減少に伴って児童生徒数が年々減少している傾向にもあります。現在複式学級のある1小学校を除いて、ほかの2小学校については令和12年度までは単式学級での運営が可能であると推定しています。ただ、このまま減少が進みますと、将来的には学校運営に大きな影響が出かねないものと認識はしているところです。したがって、先ほどご指摘がありました協議体を設立して、将来的な学校の在り方を検討するということは、今後必要になってくるかなというふうに思っているところです。

町といたしましては、第3次東北町総合戦略において、出生者数を令和12年度に75人とした目標を掲げ、取組を進めることとしておりますので、今後の動向を見ながら、学校の在り方について、先ほどご指摘ありましたようなことも

含めて対応して、見極めていかなければならないというふうに思っているところ  
ろです。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（田嶋 悟君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） 今教育長からお話ありがとうございましたとおり、令和12年度  
に関しては75名の出生数を目指しているということだったのですが、今後、こ  
の直近、令和8年度にかかっています。やはり統廃合とかというところの問題  
も含めて、長い議論というのが必要になってくると感じるのですが、その中で  
動向の注視をしていかなければいけないということだったのですが、早くも協  
議体というところは形成して、ここから本当に今後学校の統廃合とか、この  
地域にやっぱり学校は必要だよねといういろんな意見があると思うので、その  
集約、そして、ではどうしていったら東北町のためになるのかという協議をし  
ていくことが早期に必要なと感じます。なので、早くからこの議論を重ねてい  
っていただきたいなと思いますし、それこそ財政状況とかを考えた上で、中長  
期的に見据えた計画は絶対に必須だと思いますので、そちらを踏まえた上で、  
もう一度答弁よろしくをお願いします。

○議長（田嶋 悟君） 教育長。

○教育長（長尾誠治君） ありがたいご指摘かなというふうに思っています。先  
々の出生者数もある程度明確になってきていますので、早い時期からそういつ  
た検討は町としても進めていくべきことかなというふうに認識しております  
ので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

○議長（田嶋 悟君） 斗賀議員。

○2番（斗賀高太郎君） ご答弁ありがとうございます。ぜひ早期協議体等の設  
置を要望して、こちらの質問は終わりたいと思います。

最後の小川原湖に関する攻めの産業振興に関してですが、こちらは最後要望  
になりますが、陸上養殖等というところを町側の視点で考えてみると、雇用の  
創出であったり、小川原湖産水産物のブランド化の一翼も担えるかなと思いま  
す。また、ふるさと納税の返礼品の拡充であったりとか、税収面でいえば増加  
が望める。でも、これには必ず小川原湖漁協さん等の、やはり議会であったり  
とか、地域住民の方たちの理解、あとは企業等の、ここに誘致してもらったと

したら、ここに建てたいという意思であったりとかというところが非常に重要になってくるのは重々承知しております。なので、この汽水湖である特別な小川原湖というところを考えた上で何が必要なのかというところで、やはり10年後、20年後の将来を考えたときに何が必要なのかというところで再度ご検討いただければなと思います。

また、観光的側面においては、年間の来町者の数であったりというところで、観光振興が非常に重要になってくると感じておりますので、そこに関しても、湖水面を利用したアクティビティー等も複数ございますので、そういったところの検討も含めて、将来の小川原湖というのをどう使っていくのかという協議体であったりとか、現在ある会議の中でもそういった議題を議論していただくことを要望して、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（田嶋 悟君） これで2番、斗賀高太郎議員の一般質問を終わります。

---

◎散会の宣告

○議長（田嶋 悟君） 以上で本日の議事日程は全部終了いたしました。

本日はこれで散会いたします。

（午前11時28分）